



No.85 2007・9・15

ISHIKAWA-KEN HISTORY MUSEUM

発行 石川県立歴史博物館

〒920-0963 金沢市出羽町3番1号

TEL.076(262)3236 FAX.076(262)1836

<http://www.pref.ishikawa.jp/muse/rekihaku/index.htm>



ISHIKAWA-KEN
HISTORY
MUSEUM

れ
き
は
く



石川県金沢博覧場列品之図錦絵 個人蔵

秋季特別展

石川のお宝史

名宝から文化財へ

会 期

9月29日(土)~11月11日(日)

会 場 第1特別展示室・第4展示室

共 催 北国新聞社

閉館時間 午前9時~午後5時

(入館は午後4時30分まで) 会期中無休

入 館 料 一 般 650円(520円)

大学生 500円(400円)

高校生以下無料

()内は20名以上の団体料金

実演! からくり人形(ミュージアムウィーク関連企画)

日 時 10月7日(日) 午前10時、午後3時の2回

会 場 第4展示室

内 容 本物のからくり人形による実演会

列品解説

日 時 10月6日(土) 午後1時~

10月27日(土) 午後2時~

会 場 第1特別展示室(要入館料)

秋季特別展

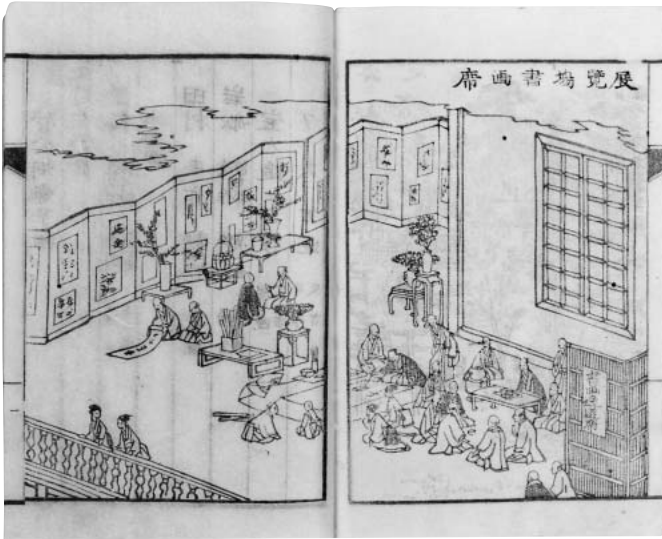
石川のお宝史

名宝から文化財へ

「文化財」の誕生

日本の「お宝」保護史

日本の文化財保護の歴史は、明治四年（一八七二）の「古器旧物保存方」（こききゅうぶつほぞんかた）、布告にはじまります。これは、明治初年の廃仏毀釈と極端な文明開化状況への反省から、「古器旧物」（こききゅうぶつ）の保存を訴えたものでした。そ



金沢博覧会品目（「物産会」の雰囲気を残している）

の後、明治三十年（一八九七）の「古社寺保存法」、大正八年（一九一九）の「史蹟名勝天然記念物保存法」の制定をへて、「国宝」や「名勝」等の「美の基準」が定められます。さらに、昭和四年（一九二九）三月には、佐竹本歌仙絵巻の分割頒布等がきつかけとなって、民間所有の「お宝」をも対象とした「国宝保存法」が制定されました。戦後は、法隆寺金堂の炎上を契機に「文化財保護法」が制定され、今日に至っています。これは、GHQの指導により、昭和二十五年（一九五〇）五月、議員立法として成立したものでした。

なお、「文化財」の語については、従来、保護法の制定過程で、山本有三が「cultural properties」を日本語に訳したという「通説」が、戦後改革、アメリカン・デモクラシーに重なる、バラ色の物語として語られてきました。しかし、近年、南京事件の圖書略奪の際に、中国の「文物」概念に対抗してできた言葉という説（鈴木良）や、ドイツ語の「Kultur Güter」が、原語として知識人にある程度普及していたとみる説（塚本学）も提唱されています。いずれにしても、戦時下の政治・文化状況の中で、「文化財」の語が誕生した点も注目すべきでしょう（高木



加越能史談会主催の「郷土文化展覧会」

博志「世界文化遺産と日本の文化財保護史 御物と陵墓の非国際性」。

石川の文化財

石川県でも、以上の保護制度にもとづき、多くの文化財が指定、保護されてきました。明治三十三年（一九〇〇）には、輪島重蔵神社蔵「木造菩薩面」、羽咋気多神社蔵「後奈良天皇女房奉書」、羽咋妙成寺蔵「山水蒔絵机」ほか、鶴来白山比咩神社蔵「紙

本墨書白山縁起」ほか、「古社寺保存法」における国宝に指定されています。

また、昭和二十五年（一九五〇）八月には、「文化財保護法」の制定により、旧国宝のうち、建造物では小松那谷寺「三重塔」など一九件、絵画では金沢心蓮社蔵「絹本着色阿弥陀三尊来迎図」など六件、彫刻では羽咋豊財院蔵「木造馬頭観音立像」など一〇件、工芸品では鶴来白山比咩神社蔵「黒漆螺鈿鞍」など二件が、それぞれ重要文化財に指定されました。ちなみに、翌二十六年六月には、「色絵雉香炉野々村仁清作」が国宝に指定されています。

「指定」をめぐる物語

ところで、「文化財」の指定をめぐる「視線」は、それぞれの時代の美意識や価値観を色濃く反映させてきたものともいえましよう。例えば、金沢を代表する重要文化財「尾山神社神門」もそうした歴史の産物でした。明治八年（一八七五）十一月、尾山神社の三重の神門は落成し、開門式が行われます。のち昭和十年五月には、「国宝」に指定される我が国を代表する擬洋風建築物です。しかし、神門が創建された当時、世間ではこの神門は神社にふさわしく

ないと非難する声が湧き起こりました。例えば、河東碧梧桐という俳人は、明治三十年七月頃金沢を行脚し、神門の印象を『頭陀袋』と題する冊子に載せています。ここには幸田露伴が「煉瓦細工の龍宮城か」と冷笑したというのを引用し、「今其再建の噂ばかり高くて、更に自ら進まんとする人もあらざるか」と罵っているほどです。

というのも、地元でも、明治二十八年十二月には「神門改築設計書」が、さらに、三十年五月には「新築楼門計画書」が作られて、和風の堂々たる楼門に改築する計画もあったのです。この計画は、高額な工事費のため実行に移されなかったようで、非難の声はその後も続き、関係者を憤慨させました。しかし、こうした非難は、昭和九年文部省から派遣された国宝保存会委員の東大名普教授関野貞が、

「神門は国宝の価値あり」と折り紙をつけたことで、終止符が打たれます。この結果、戦後も、新たな文化財制度のもとでの最初の指定物件のひとつとして、重要文化財に指定（二十五年八月）されているのです（『尾山神社誌』）。

「お宝」とは何か

こうした「文化財」の創生や指定をめぐる物語は、いたるところで見られます。もちろん、無形文化財も例外ではありません。昭和五十一年に、初の重要無形民俗文化財に指定された「奥能登のあえのこと」なども、その「発見」や「解釈」について、民俗学をめぐる社会的背景が、鋭く指摘されています（菊地暁『柳田国男と民俗学の近代 奥能登のアエノコトの二十世紀』）。つまり、「文化財」という概念もまた、歴史的・政治的に作られ、運用されてきたものなのです。であれば、「文化財」について語るのかかわりを検討することで、より深い理解が得られるのではないのでしょうか。こうした視点もこの展覧会では紹介したいと思っています。

（学芸専門員 本康宏史）



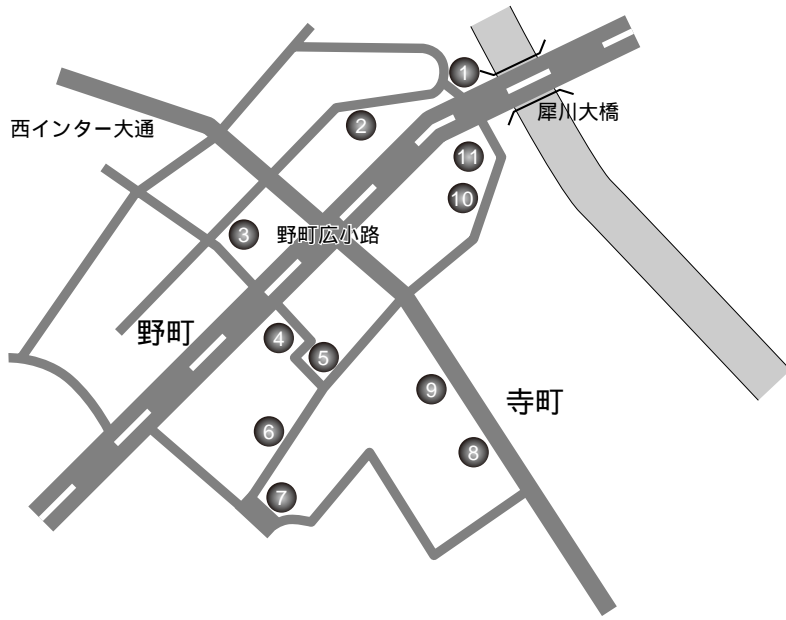
金沢名所 尾山神社神門

寺町界隈を歩く

歴博特選・おすすめの歴史散歩コース(2)

前回から始めました、おすすめの歴史散歩コース
今回で第二回目となりました。

さて、今回紹介するのは、平成十九年春におこな
いました雨宝院を出発して蛤坂に至る「野町・寺町
散策コース」です。



雨宝院

泰澄大師(六八二丁七六七)を創始とする密教寺
院。室生屋星が幼年期に養子として引き取られた寺
として有名です。

神明宮

樹齡千年の大ケヤキがそびえる神社で、前田家の
手厚い保護を受けました。五月と十月に行われるあ
ぶり餅祭は、災難厄除けに御利益があります。

西茶屋街

藩政時代からの歴史を持つ西茶屋街。この一角は、
今も料亭や芸妓置屋が軒を連ねています。

願念寺

金沢における蕉風の先駆をなした俳人、小杉一笑
の菩提寺として有名です。

妙立寺

初代藩主・前田利家公が藩を守護する祈願所とし
て建立した寺。外敵の進入を防ぐため、数々のから
くり仕掛けのあることから忍者寺の愛称で呼ばれて
います。

三光寺

三光寺は金沢の寺町寺院群にある浄土宗のお寺で
す。三光寺は大久保利通を暗殺した首謀者たちの活
動拠点だったそうです。

六斗広見

金沢市中の所々に火除け地として設けられた広見
と呼ばれる土地空間があります。この六斗広見は市
中の広見の中でも、最大規模のものとして知られて
います。

伏見寺

金沢の地名の由来に登場する芋掘藤五郎が、奈良
時代に建立したといわれるお寺です。

松月寺

3代藩主・前田利常の頃、小松城内から移したと
いう楼で有名です。

妙慶寺

妙慶寺は浄土宗のお寺です。妙慶寺は天狗さんの
寺と言われ、近辺の何回かの火事にもかかわらず天
狗さんの守護により妙慶寺だけが焼け残ったそうで
す。

蛤坂

昔は犀川大橋の南詰めを野町に向かって、左に分
岐する鶴来街道の坂道を妙慶寺と呼んでいました。
現在の蛤坂です。焼けて口が開いたところから、俗
に蛤坂と呼ぶようになったということです。

(学芸主査 永井 浩)

白峰まるごと博物館



の皆さんをはじめ大勢の方々が参加。活発な意見交換がありました。こうした企画を継続してほしいとの声もあちこちから聞かれ、充実した2日間でした。

8月4・5日の2日間、白山市白峰地区を舞台に特別展や民家探訪、歴史放談など、盛り沢山のイベント「白峰まるごと博物館」を開催。4日の「大壁作り民家探訪」では、あいにくの雨にもかかわらず約40名もの皆さんにお集まりいただき、2時間余りの散策を堪能。5日の歴史放談「白山ろく18ヶ村を語る」でも、地元

わくワーク (work) 体験



金沢市内中学生が参加する「わくワーク (work) 体験」。これは学校を離れて3日間の職場体験を行う、石川県教育委員会の主催事業です。今年度は7月上旬に額中(5名)、下旬に兼六中(5名)、紫錦台中(6名)が相次いで参加。生徒たちは初めての職場に緊張し、さらに普段の博物館のイメージとは大きく違った仕事に戸惑いながらも、全員懸命に取り組んでくれました。その彼らが悪戦苦闘して展示したコーナーが、館内に3ヶ所(第1・2・8展示室)あります。ぜひその成果をご覧ください。

8月1日から10日まで、博物館学芸員実習を実施。これは学芸員資格を取る場合に、博物館法で定められている現場実習です。今年度は12大学21名が参加。各

催事日録

7月21日から37日間にわたって開催された夏季特別展は、8月26日、盛況のうちに無事終了。一度だけではなく何度も足を運んで下さった観覧者も数多く、また期間中に開講された白山講座(全4回)は、いずれも予想を大きく上回る数の聴講者があり、白山信仰への関心の高さを再認識させられました。ここに本展開催のためにご協力下さいました関係各位に改めて感謝の意を表します。



8月1日から10日まで、博物館学芸員実習を実施。これは学芸員資格を取る場合に、博物館法で定められている現場実習です。今年度は12大学21名が参加。各



課学芸員の指導のもと、資料の取り扱いや、ワークショップの企画運営など、熱心に取り組んでいました。近い将来、ともに歴博を支えてくれる人材が、このメンバーの中から誕生することを期待しています。

夏季特別展「白山展 聖地へのまなざし」

博物館学芸員実習



人麻呂画像
石川県立美術館所蔵

石川県立美術館コレクション展開催中!!
石川県立美術館の改修工事に伴い、同館の名品の数々を歴博特別展示室で公開しています。
日本の美 人・鳥・花そして風景
9月4日(火)～20日(木) 第1特別展示室
古九谷と石川の工芸
9月4日(火)～26日(水) 第2特別展示室
9月29日(土)～10月14日(日) 第2特別展示室

開講時間：午後2時
会場：学習ホール 常設スポット解説は、第1～3展示室
受講料：無料 常設スポット解説は無料。ただし他の展示もあわせて観覧の場合は入館料が必要。
申し込み：不要 当日受付へお申し出下さい。

月日	行事	内容
10/6(土)	特別講演会 (ニューシウム)	天皇と中世文化 講師：本館館長 脇田晴子
10/7(日)	常設スポット解説 ワーク関連企画	加賀藩の成立と改作法 (学芸専門員 濱岡伸也)
10/20(土)	れきはくゼミナール	「お宝」としての大野弁吉 (学芸専門員 本康宏史)
11/4(日)	常設スポット解説	北海道開拓と耕地整理 (学芸専門員 本康宏史)
11/17(土)	れきはくゼミナール	船絵馬のはなし (普及課長 前田武輝)
12/2(日)	常設スポット解説	海辺の絵馬堂 (普及課長 前田武輝)
12/15(土)	れきはくゼミナール	謎の豪族羽咋君と七塚 (学芸主査 永井浩)

行事日程 (10～12月)

れきはく
トリヴィア

重要文化財の通用門

第2棟第4展示室の壁に、国の重要文化財指定書（平成2年）が掲示されています。現在のところ、歴史博物館が持つ国指定重要文化財は一件だけ。しかもそれは所蔵品ではなく、博物館の建物そのものなのです。

さて、この指定書に記された重要文化財の項目の最終行に注目。「附（ついたり）」として「通用門一基煉瓦造柱門」と記されているのです。ここで「通用門」…、道路から歴博敷地内に入るときに通ったあの門のことか、いや、あれは正門だと思っが…。だとすれば、どこか別に門があるのか？ などと思われた方はありませんか？ ついこのあいだも、あるお客様からこの「通用門」の場所を訪ねられ、ご案内したことが



通用門



通用門（NTT側から見る）

その昔、歴博が陸軍兵器庫だった頃、この門の向こう側は出羽町練兵場でした。残された資料が乏しいので断定はできませんが、この門はおそらく当時からこの辺りにあったと思われます。兵器庫から大学、そして博物館。百年近くの間、この通用門は赤煉瓦3棟をどのような思いで見つめてきたのでしょうか。

存じの方がいらっしゃるなら、これは相当の「歴博通」とお見受けします。まず正門の前から赤煉瓦敷の歩道をお隣のNTT金沢支店近くまで歩いてみてください。そして境界の林の中をじっと目を凝らして見ると…、そこにひっそりとたたずむ通用門の姿が見つかります。

ありました。確かに道路側の門は正門です。では、重要文化財の通用門はどこにあるのでしょうか。もし正解をご

次回の展覧会

石川県立美術館コレクション展

加賀藩の美術工芸と芸術院会員・人間国宝

11月27日（火）～12月13日（木） 第1特別展示室
日本美の特徴の一つである花鳥風月、故事人物などをテーマとした多彩な表現を鑑賞下さい。

石川県立美術館コレクション展

古九谷と石川の工芸

10月16日（火）～11月11日（日） 第2特別展示室
11月14日（水）～11月30日（金）

石川を代表する色絵磁器・古九谷をはじめ、工芸各分野（陶磁・漆工・染織・金工・木竹工）の名品の数々を鑑賞下さい。

展示替えなどによる休館日（9～12月）

9月27日（木）～28日（金） 2日間
10月 休館日なし
11月12日（月）～13日（火） 2日間
12月25日（火）～1月3日（木）10日間（年末年始）

本多の森から

第3展示室の移築商家の店先に、トウモロコシが一本つり下げられています。これは家内安全、商売繁盛などを願った門守りの一種で、現在でも金沢市内のあちこちの家の玄関先で見かけますね。金沢市東山の寺院で行われる8月の行事「四万六千日」の際に、昔から出されているものです。でも、移築商家のものとはかなりの年月が経っているものとみえ、汚れも目立ってきました。これではせっかくのご利益も怪しいのではということで、このほど新しいものを調達。ただし生ものは展示室内御法度なので、ほどよく乾燥させてからお披露目いたします。